

伊勢・三河湾における イカナゴの資源管理

愛知県水産試験場 漁業生産研究所

伊勢・三河湾のイカナゴ漁は、昭和 50 年代に厳しい不漁にみまわれ、漁業崩壊の危機に直面しました。このときの不漁は、過剰な漁獲により親魚が減少していたことや、黒潮の大蛇行が続きイカナゴの産卵場が高温・高塩分の海水に覆われて産卵に悪影響があったこと、などが原因と考えられています。

これをきっかけに資源管理の必要性が認識され、愛知・三重両県の漁業者は、水産試験場の研究成果を取り入れながら、積極的なイカナゴ資源の管理に取り組みました。その結果、イカナゴの漁獲量は安定し、資源管理をはじめてからは昭和 50 年代に経験したような長期間におよぶ不漁はみられなくなっています。

現在、伊勢・三河湾のイカナゴについて実施されている主な資源管理の方策は、次のとおりです。

- ① 解禁日の決定
- ② 終了日の決定
- ③ 親魚の保護



イカナゴ



イカナゴ加工品（小女子、こうなご）



イカナゴ漁の操業



イカナゴの水揚